

平成15年7月2日  
原子力安全対策課  
(15-40)  
<15時記者発表>

敦賀発電所1号機の定期検査状況について  
(紛失した主給水逆止弁構成部品の調査状況)

このことについて、日本原子力発電株式会社から下記のとおり連絡を受けた。

記

敦賀発電所1号機(沸騰水型軽水炉;定格電気出力35.7万kW)は、平成15年6月14日から第28回定期検査を実施中であるが、6月23日、格納容器内に設置されている主給水逆止弁<sup>\*1</sup>の分解点検において、弁体を支える弁軸の両端に取り付けられていた2個のワッシャー(外径56mm、内径32.5mmのリング状、ステンレス製)のうち、片方の紛失を確認した。

また、残っていたワッシャーの内側および2個のワッシャーと接する弁軸表面が摩耗減肉していることを確認した。

これまでに、当該弁近傍の主給水配管内の目視点検を行ったが、紛失したワッシャーは発見されていない。今後、範囲を拡大し紛失したワッシャーの調査を行う。なお、この事象による環境への放射能の影響はない。

\*1: 給水逆止弁

原子炉圧力容器に送られる冷却材(給水)が流れる配管に取り付けられた弁で、給水の逆流を防ぐ機能を持つ。

[平成15年6月24日記者発表済み]

1. 調査状況

紛失したワッシャーについては、当該弁から下流の原子炉圧力容器側に流れている可能性が高いことから、原子炉圧力容器までの給水配管内や原子炉圧力容器内のシュラウドサポート上部等について、超音波探傷検査または水中テレビカメラによる調査を実施した。

調査の結果、原子炉圧力容器内の給水スパージャーフローノズル内側に、ワッシャーと思われる物があることを確認した。

また、主給水系の他の同型弁（3台）について、分解点検を行なった結果、ワッシャーや弁軸に最大約4mm程度の摩耗減肉が見られたが、ワッシャーは正規の位置に取り付けられていることを確認した。

今後、給水スパージャーフローノズル内の物の取り出し方法について検討していくとともに、当該弁の弁軸およびワッシャーが過度に摩耗した原因について調査する。

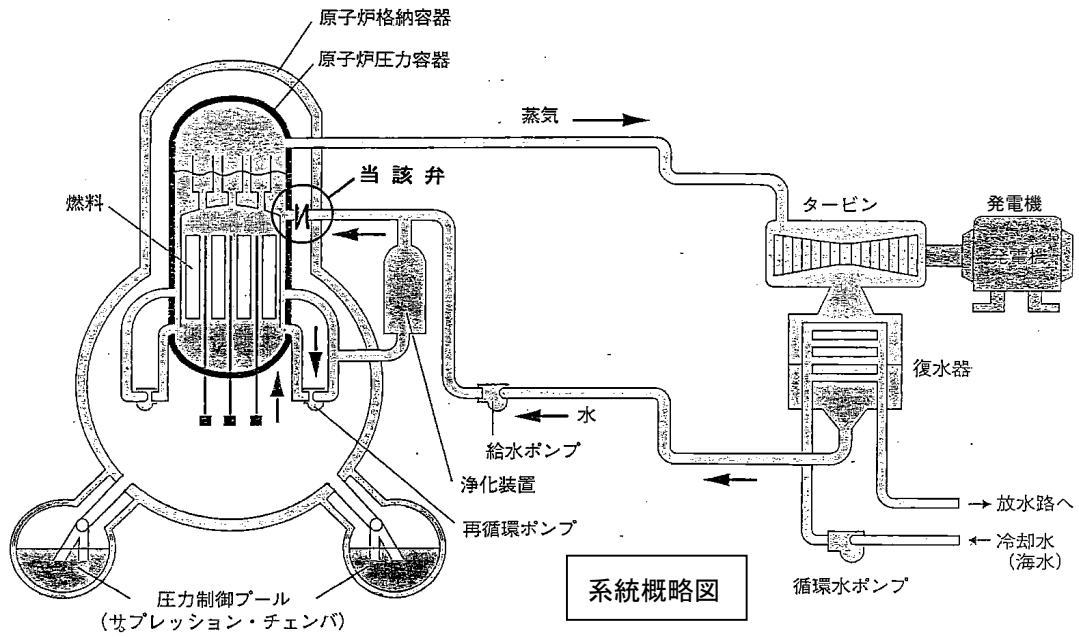
なお、給水スパージャーフローノズル内の物を取り出す準備として、現在、炉内に装荷されている全ての燃料集合体(193体)を使用済燃料貯蔵プールに運び出すこととし、本日から作業を開始する予定である。

## 2. 定期検査の今後の工程

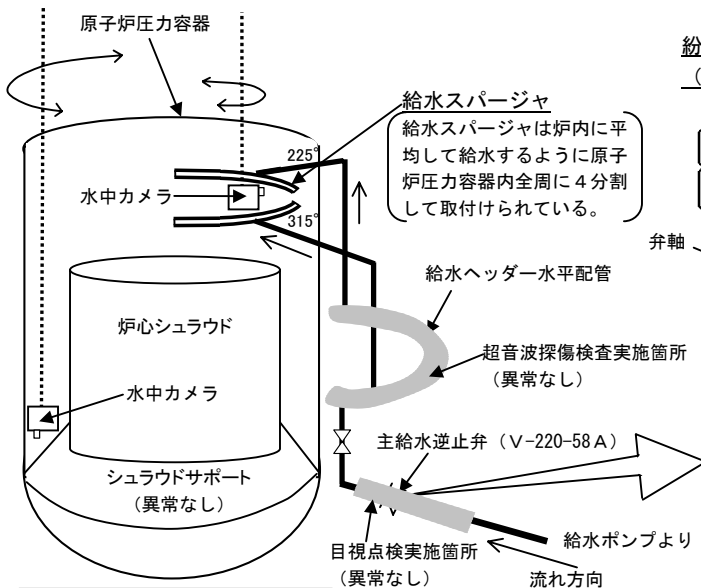
今後、給水スパージャーフローノズル内の物の取り出し作業により、定期検査期間の延長が必要になるが、工程については現在検討中である。

問い合わせ先(担当：小西) 内線2354・直通0776(20)0314
----------------------------------------

紛失した主給水逆止弁構成部品の調査状況

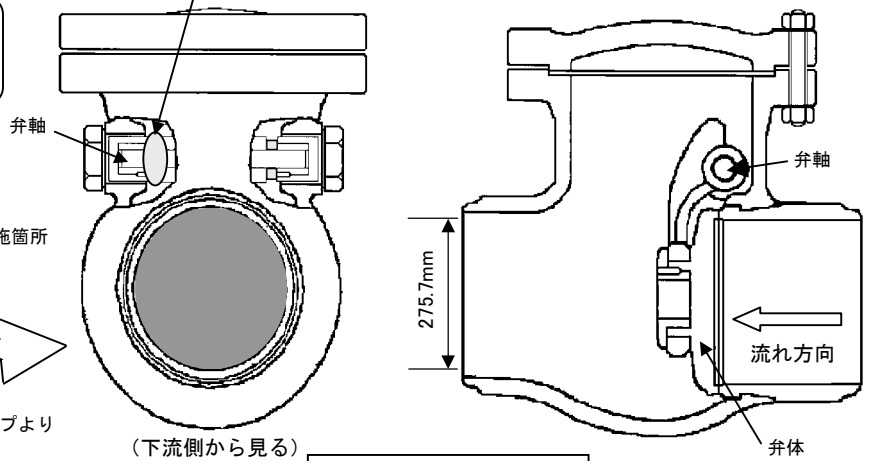


系統概略図

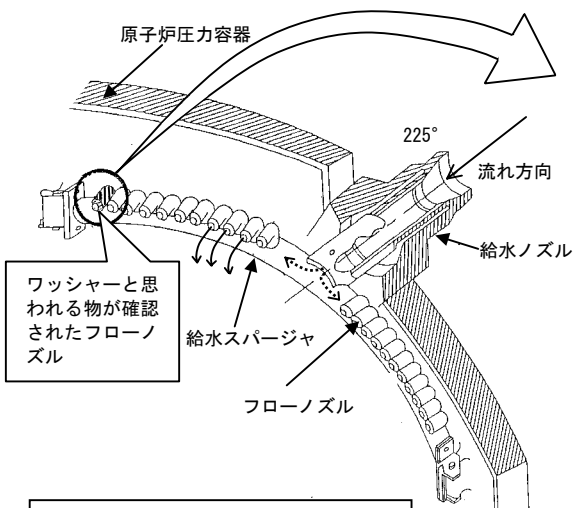


ワッシャー調査状況図

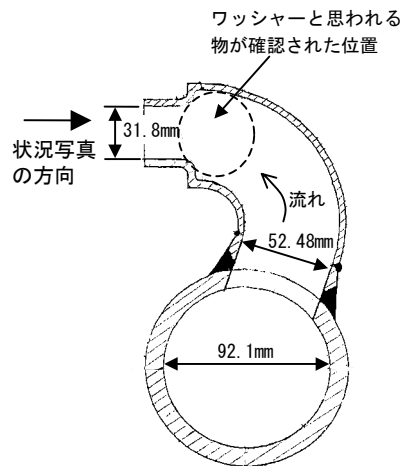
紛失したワッシャー  
(外径：56mm 内径：32.5mm 材質：ステンレス)



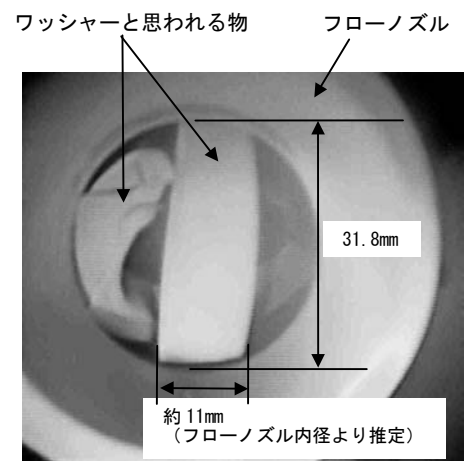
主給水逆止弁構造図



給水スパージャ概略図  
(給水ノズル 225° 位置)



フローノズル断面図



状況写真  
(フローノズル正面より)